

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和4年4月28日（木）
9時31分～11時21分
第4委員会室

【出席者】三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員

【議長団】笹田議長

【事務局】河上局長、小寺書記

議題

1 はまだ議会だよりminiについて……………資料1

(1) 第13号掲載内容及び原稿担当

(2) その他

2 地域協議会との意見交換会について……………資料2

(1) 運営方法

(2) その他

3 SNSを活用した議会情報の発信について……………資料3

(1) YouTube

(2) Twitter

(3) その他

4 その他

【次回委員会開催予定日】令和4年5月17日（火） 13時30分から 全員協議会室

【議事の経過】

[09時 31分 開議]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始めたい。出席委員は10名で定足数に達している。本日はレジュメのとおり、その他含めて4点の議題について協議をお願いします。

1. はまだ議会だよりminiについて

(1) 第13号掲載内容及び原稿担当

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 掲載記事2点を選びたい。幾つか候補を上げているが、皆から項目について提案があれば伺いたい。

川上委員 次のはまだ議会だよりが9月なので、6月ごろに災害復旧に関する中間報告を出してもよいのでは。

三浦委員長 議会改革推進特別委員会のウェブ視察報告は本紙でもしていないので、それにしようか。視察報告はできるだけすべき項目かと思うが。

小寺書記 議会改革推進特別委員会で行政視察レポートを現在つくられている。5月30日の全員協議会において成果発表を予定されている。それを経てという形がよいのか。5月30日の発表から6月1日発行のmini掲載というと、間に合うかどうかぎりぎりではあるが。

三浦委員長 それは議会での報告か。

小寺書記 全員協議会でするので、執行部がおられるかが一つと、市民に対しても。

三浦委員長 これはこれで情報発信として書いて、議会では通常どおり報告があつてということで。問題ないかと思う。ほかにご意見は。各委員会状況も踏まえて。

大谷委員 会派代表質問がなくなることも大きな変化なので、本紙かminiかどちらかで考え方をお示しすべきかと思う。

三浦委員長 これはかなり大きなことなので、本紙で取り扱うべきかと思うが、時間があいてしまうのでminiで1回出して、さらに本紙でも書くことにしてもよい。どうだろうか。

出た意見は、復旧状況の中間報告をしたほうがよいのではとい

うことで、議会視点を入れて報告するという。それから視察報告をしていただくこと。議会の大きな変更点である会派代表質問の現行のやり方の廃止について触れること。紙面的には2点ほどになると思うがどうか。

川上委員
村武副委員長

ウェブと代表質問でよいのでは。

会派代表質問のことを早目に載せたいが、miniよりも本紙のほうがよい。

三浦委員長

本紙にも載せるべき事案だと思うが、時間があいてしまうので仮に重複しても扱うべき項目であればminiにも掲載してもよいかと思う。

川上委員からは会派代表質問と視察の2点を掲載したらよいという意見が出たが、それでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では記事の担当者も決めたい。それぞれ当該委員会に所属する方をお願いしたいが、議会改革推進特別委員はおられるだろうか。

小川委員
三浦委員長
村武副委員長
三浦委員長

はい。

小川委員には前回書いていただいたが。

私がやる。

ではレポートをまとめていただきながら、これは副委員長にお願いする。議会運営委員会はどうだろうか。まだminiの記事を書いたことがない方をお願いしたいが。

沖田委員
三浦委員長

はい。

では沖田委員に。お二方よろしく願います。加えて委員のつぶやき。前は上野委員に書いていただいた。今回はどうか。

川上委員
三浦委員長

私にさせてほしい。

川上委員にお任せしてよろしいか。

(「はい」という声あり)

議長日誌はうる肌部門の件もよいと思うが、期間中にほかによりニュースがあればそちらを掲載していただくようお願いする。担当委員は以上のようにしたい。

(2) その他

三浦委員長

ほかに皆から何かあるか。

(「なし」という声あり)

2. 地域協議会との意見交換会について

(1) 運営方法

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

基本的には昨年度に行った地域協議会との意見交換会の実施概要をベースに書いているが、昨年実施した上での意見や反省点を振り返って若干修正している部分もある。皆からこの概要について意見があれば伺いたい。

令和4年7月に地域の日が設けられ、地域協議会とは限らないが各地域に執行部が出向いて意見交換会が行われることとなっている。これと直接関係はないが、念のため補足しておく。出向いた先でいただいた意見・要望等をまず全議員で共有することは一緒だが、その後必要に応じて委員会の所管事務調査あるいは個人一般質問で取り上げるなど、この部分は例えば全員協議会で共通認識を持ったのではなく、あくまで情報共有した上で各議員判断という形にしているのです。そのようなやり方でよいかどうかは皆に確認してほしい。

あと一つ、恐らくこれは三隅の地域協議会からリクエストされたのだが、議論の積み上げができるよう毎回同じ顔ぶれで開催したいと。そういった意見も含めて今回は同じ顔ぶれで行ってみたいかどうかと、まずは提案する。あくまで提案なので、ほかの意見があればこの場でお願いします。

川上委員

前回と同じようなメンバーでよい。何名かはおられないとかがあるので、半数は前回と同じになるような形になればよい。

三浦委員長

肥後委員は地域協議会との意見交換会は初めてだが、意見があれば。

肥後委員

出てくる意見に対してどう回答すればよいか。何度か訪問する中で、同じ議員に来てもらったほうが確かに地域の方も話がしやすいのかなど。重要な意見がきちんと取り上げられて、浜田市に伝えていただけるような重みがあるよう、議会もやっていかなければいけない。

三浦委員長

委員が全部の地域協議会に出向くわけではないので、伺って共有するのがまずポイントで、また、その後棚上げするのではなく

各委員会がそれぞれの意見に目を通してどう扱っていくかがポイントになる。

小川委員

今年度もコロナ禍で議会報告会ができないため開催するわけだが、仮に終息した段階ではどうするのかについても、ある程度の方向性を持っておいたほうがよい。

また、出された意見に対しては委員会で共有しさらに深めることが必要だが、会派でもその点について研究課題があれば研究する必要があるのでは。

議員が個人一般質問に取り上げるなど、となっているが、たくさんの中から具体的に一つの項目を一般質問で取り上げたら、それで取り上げたことになるのか。直接そのことを言葉として言及しなくても、一般質問内で触れれば取り上げたという位置づけになるというのが私の認識なのだが、それでは取り上げたことにならないといった短絡的な見方はどうかと感じる。

同じ顔ぶれでという件は、私の班は今年の顔ぶれから2人入れかわるのが確定しているため、その形で訂正していただければよい。

三浦委員長

コロナ禍で議会報告会の開催が難しいため、見直しする一環として開催するのが地域協議会との意見交換会という位置づけになっているので、今後の議会報告会、今までやっていた議会報告会の取り扱いについては協議して準備しておく必要があるかと思う。

上野委員

我々の地域でも、昨年開催した地域協議会と議員の意見交換会を続けてやる予定だと紹介したら喜んでおられた。ただ、地域協議会のメンバーがかなり変わっているので同じところへ行くのがよいかどうかはわからない。地域が抱える問題に対して、その地域の人にわかるように回答する、目に見える形になればよい。

村木委員

地域協議会はもともと市長の附属機関と認識しており、設置目的は地域課題や問題を取り上げ、よりよいまちにするためである。そういった方々と話せるのはすごくよい。3常任委員会の委員が漏れなく入る班編成は大切だと改めて思った。ただ、要望事項に議会としてどう回答するのか不安である。意見を聴いて委員会で取り上げる、または個人的に迫及することはあるのかもしれないが、その場の回答があるならば正直難しい。そもそも市長の附属機関であり、そこで出た意見を市長は参考にして政策することにつとめるという規程があるが、議会のことは書いてない。どうい

った形でかかわるのか不安である。

三浦委員長

例えば委員会で今どう取り扱っているかなど現況をその場でお戻しし、その後いただいた意見を議会に持ち帰る形が多いかと思う。しかしご指摘のとおりどう回答するかは難しい。どういう認識でこの場に出向くかは全議員で事前共有しておく必要があると改めて思った。

大谷委員

市民とのコミュニケーションには当然意義があるので、機会は大事にしていきたい。これまでの流れを踏まえながら新人があいたところを埋めていく形にせざるを得ないだろう。中身については経験しないとわからないが最善の対応をしたい。

川神委員

地域協議会との意見交換会、これはこれで有意義だと思う。ただ、執行部が出向いて話すことと議員が出向いて話すことの論点が同じなのはまずい。執行権は執行部にある。議会の視点がどの程度発揮できるか。議会はどのような立場で向き合うか。重要なことは執行部の後押しをすればよいのか。

今度、協働のまちづくり推進特別委員会が各まちづくりセンターを回って聴取をするのだが、執行部との話と議員との話の内容が違って当たり前である。我々は役所とまちづくりセンターの隙間を埋めていける立場でやっていかねばならない。議会は意見をどう受けとめて市政に反映するのかを意識しなければ。

班編成も、同じ人のほうが話が早いのは当然だが、そうならない場合もある。前回の議事録を各議員が読み込み、内容を把握した上でスタートできるように。誰が行ってもよい体制をつくったほうがよい。

沖田委員

地域協議会との意見交換会自体は結果的によいので今後も続けていけばよいと思っている。班編成について、同じ顔ぶれだと議論の積み上げができるというのはおっしゃるとおりだが、何を積み上げるのか議論の内容にもよる。例えばある地域課題があり、それは産業建設委員会が担当だということになれば委員会が取り組むべきではないか。そのことと意見交換会とは分けて考えるべきだと思う。私は先ほど副議長が言われたように、いろいろな議員がいろいろな地域に出向くスタンスを重視したいので班編成は従来どおりでよい。

村武副委員長

私も班編成については、各地へ行って意見を聴くのがよい。昨

年は地域協議会の方と事前協議の上でテーマを決めていたが、地域協議会の方がそのテーマを飲み込んでいたかは疑問があったので、テーマについても協議が必要。前は時間が足りない様子のところもあった。皆が意見を言えるような進行をするべき。

三浦委員長

実施についてさらに皆の意見をすり合わせていきたい。地域協議会との意見交換会をやろうとした背景は、今までやってきたような、ワークショップ形式で各地へ出向き、参加者とテーブルを囲みながら議論する形式がコロナ禍で難しくなったことと、出席者の固定という慢性的な課題があったことを踏まえ、広聴機能を担保するため地域協議会と意見交換をすることで地元の小さな声を吸い上げようということだった。したがって先ほど川神委員が指摘されたように、執行部と地域協議会とのコミュニケーションとは全く別物だという前提はある。それを共有しておかないと、なぜこの会をやるのか、またその成果も変わってくる。改めて意識共有が必要かと思う。この考え方についてはどうか。

川神委員

よいと思う。本来議会と地域協議会とがなぜ協議するのか、そもそもどこをスタートにするのかは確認しておく必要がある。市民の声は往々にして、困っている問題の解決方法を丸投げされるケースが多い。しかし我々は陳情を受けに行っているわけではない。なぜそのような問題が起こっているか、もっと深いところも議論しながら引き上げ、制度的な問題があれば執行部に改善してもらおう方向へ持っていく。それが、議会が出向く意味ではないか。

三浦委員長

先ほど村武副委員長からテーマをどうするかという問題を提起されたが、もちろん議事録を読み込むのは当たり前で、それを前提に今回も取り組むわけだが、前回この会場ではこういう意見が多かったから、これについてテーマをこちらから設定して協議会に提案する方法もあると思う。それなら先方の意図にも応えられるのでは。地域の意見を拾い上げるという意味合いの時間をどう確保するかにもつながるが、どのやり方がよいかは、皆の意見を伺いながら決めたい。

笹田議長

昨年の弥栄の例を取り上げたい。弥栄はふるさと体験村の件で質問があり議会の意見を求められた。先ほど川神委員が言われたように、地域協議会が執行部に言うことと我々に言うことは違うというのはそこだと思う。どう実現したらよいかという相談だっ

た。いろいろ話して3月定例会議にめどがついて可決して進んだのは、あの意見交換会の第一歩だったと思っている。各地にある課題で何かしらクリアできるものがあればテーマとしておもしろいのでは。例えば人口減少などは全体の課題になっているので、地域が抱える課題をテーマにすると話しやすいのでは。

執行部との目線とは違い、地域協議会の目線にいかにかかり添って協議できるかが議会として大事だと思う。班編成については議員個人の聞き取りではなく全体としての聞き取りなので、誰が行っても大丈夫だということを議会として示す必要がある。

川神委員

私も弥栄に行った。ふるさと体験村について、えぐるような話もさせてもらった。三隅にも行き、三隅のまちづくりは10年20年早いのだと言われた。もう少し本音で話ができると思うのでは。お伺いに行くのではなく意見交換なので、どのように取り組むか。

三浦委員長

弥栄は私も傍聴した。各委員が自身の意見を問われて答えるようなコミュニケーションもあった。誰が行っても同じというスタンスで出向いたとき、どう回答するかという投げかけが先ほど村木委員から出た。議長団はどのように思われるか。

笹田議長

もちろん議会全体としての意見に個人の意見は言えないが、前回の弥栄は、どうすれば実現するかという質問だったので、個人的な意見が言いやすかった。議会全体としての意見を求められたら、個人的な意見を発することは控える。さじかげんは各議員に必要なスキルではないか。以前、個人的な意見を議会の総意のように発言して問題になったこともあるので、その辺はしっかり注意しないとイケない。

三浦委員長

前は弥栄から、自分たちはこのようなところでとまっているのだが、どのようにそれを乗り越えたらよいかという問いかけがあったので、出向いた議員も回答しやすかったと思う。テーマを設定するとそういった協議がしやすいかと思う。

笹田議長

暴走したときは議員同士でとめるようチームワークをつくる。司会スキルも必要かと思う。

肥後委員

地域が抱える課題をテーマに取り上げるなら、先に意見を聴いておかないと。そこがクリアできればテーマを掲げてやる。議員も同じ思いで意見交換できればよりよい会になるのでは。

三浦委員長

前回はテーマを設定したがいろいろな意見が出た。また、大き

いテーマだけ持っていくと意見が広がるので、どのようなことを聴きたいのか質問を考えて持っていくと協議がもう少し進みやすいかもしれない。

川上委員

意見交換会の班編成と常任委員会の顔ぶれは違うので、具体的なテーマを設定したときは常任委員会でやったほうがよいのではという話もある。すみ分けも考えないといけないかもしれない。

大谷委員

班長がテーマを絞ればよい。メンバーにはこだわらない。そういう方向でよいのでは。

限られた人数で全てを網羅するメンバーを配置するのは難しいので、編成の優先順位をつけて配置すればよい。地域によって意識や課題に違いがあるので、これまでの経緯を踏まえてやるなら事前の意思疎通を図る機会があったほうがやりやすい。状況によっては前回にいなかった者もいるので、前回いた者から様子を聞くなど事前の打ち合わせをするとやりやすい。

三浦委員長

まず目的について意識共有を全議員でしておくため、班内で事前協議をしっかりと臨むこと。前回までの協議状況は踏まえて出向くことを徹底する。

テーマ設定は各地域協議会と柔軟にやっつけようとのことだったので、各班の正副班長をメインに地域協議会の方とすり合わせしながらテーマ設定などを協議すること。班は常任委員会や住まう地域をできるだけばらせるようにしつつ、前回と同じ顔ぶれという点にはあまり固執せず班編成をする。今日示した開催概要を、今日の意見を踏まえて書き直す形で実施したい。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では今踏まえたことを正副委員長と書記とで修正したい。

ここで暫時休憩する。再開は10時30分からとする。

[10時 25分 休憩]

[10時 32分 再開]

(2) その他

三浦委員長

委員会を再開する。先ほどの地域協議会との意見交換会について、その他ないか。

(「なし」という声あり)

3. SNSを活用した議会情報の発信について

(1) YouTube

三浦委員長	まずY o u T u b eの活用について運用案を村武副委員長から 願う。
村武副委員長	(以下、資料をもとに説明)
三浦委員長	事務局から補足はあるか。
小寺書記	ない。
三浦委員長	村武副委員長から提案があった。皆の意見を伺う。
小川委員	目的も含めてこれをする意義がよくわからない。議会の様子は さまざまな形で発信されている。3分動画の効果も見えない。誤 った情報を流したときの責任体制、訂正方法はどうなるのか。会 派代表質問がなくなったことも賛成者と反対者がいる。発信する にも難しさがあるのでは。当たりさわりのない表面的なものを流 したとしても、どれだけ議会を身近に感じる効果があるのか疑問 である。やる効果、目的をもう少し考えたい。Y o u T u b eも T w i t t e rも全世界に向けての発信になる怖さと心配がある。
川上委員	別に問題ない。現在も本会議や委員会が全てY o u T u b eに 流れている。しかし聞きたいところまでずっと聞いてないといけ ない。逆に3分間の動画だと、ここにこういう問題があったのだ とわかる。それだけでも市民の興味を引くことは可能だと思う。 よいことだと思う。
肥後委員	最初に書いてある目的が、議会の様子を幅広い世代に届けると ある。特に政治や浜田市の行政に対してあまり興味関心がない若 い世代に向けては、すごくよい広告媒体だと思う。確かに難しい 面はあるが費用がかからない。何でもそうだが、いきなり難しい 問題を投げつけられると考えることをやめてしまうが、少し興味 があるような内容の短い動画をきっかけに見てもらえたら。
川神委員	Y o u T u b eは時代の流れ。誤った情報をどう修正するかと いうこともあるが、まずベースとしてこういったものを最大限使 っていくことに異論はない。3分動画に議会のトピックスを三つ 四つ凝縮して、フランクにやること。議員がインタビュアーにな り撮影もする。できるかわからないが議会に架空のキャラをつく ってインタビューするとか。より親しんでもらえる形で、内容は

きちんと押さえて。

三浦委員長
大谷委員

インタビューとして学生の協力を仰ぐのは一つの方法。
時代の流れという観点からすればありかと思うが、委員会として取り組むときにはまだ議会だよりにしてもm i n iにしても、この場で中身について協議決定して、一言一句点検した上で発信する。そういう意味ではこのツールで発信する場合、何らかの点検をこの委員会がやってからにするのか。委員会としてするなら、発信内容の確認は必要かと思う。

村武副委員長

議会トピックスに関してははまだ議会だより編集のときに、大体の形は出るかもしれないので、それを質問したらどうか。

大谷委員

つまりはまだ議会だよりやm i n iの編集が終わった内容について、紙面での発信ではなくY o u T u b eを使った発信にするということか。

村武副委員長

本当に短時間なので、今回の定例会議でどのようなことが議論されたか、大まかなトピックス部分をまずY o u T u b eで出していただき、そこからはまだ議会だよりにつなげるなどしたい。

大谷委員

3分動画だと原稿用紙3枚分の内容になるので、そこそこの情報量がある。これをどう扱うつもりか。

村武副委員長
三浦委員長

あくまで提案なので、そういう細かい部分は皆で決めたい。
今回の案は議長の協力を得て、今回の定例会議を振り返ってどうだったかという形で、全体を俯瞰しながら事実をダイジェスト的に語っていただきながら、もっと詳しく見たい方を各コンテンツに誘導する。そういう入り口が必要なのではというのがY o u T u b eやT w i t t e rを設ける背景にある課題である。3分も要らない、もっとCMのように短いものでよいといったご意見があれば、それについて協議していけたらよい。あくまでも目的は先ほど述べたとおりである。

大谷委員

発信しているということだけならあまり考えなくてよいが、議会を身近にするとなると、身近にするとはどういうことか。議会側の意図がしっかり伝わる、そのためにどういう発信が必要か。意味も意図もわかるし発信できればよいと思いながらも、実際にやるとなるといろいろ考えないとならない。

小川委員

身近に感じてもらうことが目的なら、情報の中身をかなり検討する必要がある。3分で何を訴えて身近に感じるか、提供内容も

かなり吟味して出す必要があるのでは。はまだ議会だよりをつくるくらいの慎重さをもって流す中身を検証すべき。

上野委員

できるだけ若者の興味を引くように。市議会側が誘導していくような形に利用できれば結構である。

三浦委員長

議会をより身近に知ってもらうというのがこの2年間の取り組みのベースにあるので、より身近にするために何を必要があるのかの一環で。委員会を全部撮影した動画を載せても身近ではない現状を、どうやってそこに誘導していくか、その手前側をつくるのが今回の作戦である。

何か取り組む人が増えれば身近になったのではということなら、学生と何か取り組んで発信するのがよいのではないかとか、そういう考えがあってもよい。これはあくまで入り口のハードルをもっと低くするにはどうしたらよいかという視点で提案するものなので、YouTubeやTwitterに固執するものではない。ただ、これらのツールは予算がかからないので活用しようと提案するものをご理解いただきたい。

流れでTwitterのことも話したい。

(2) Twitter

三浦委員長

(以下、資料をもとに説明)

新しいことをやるときに試行期間を設けるかどうかも、実際にやるとなれば考えないといけない。何かあれば。

小川委員

これは若者に対する主権者教育の部分ももしかしたら含まれているのかも。利用媒体がさまざまある中でTwitterを選ばれた理由が書いてあるが、リツイート機能によって拡散力がある。仮に誤った情報が流れるなど、どういう人がどういう立場で見られるかわからないところに流す編集体制。また各委員会の正副委員長が情報確認作業に当たらねばならないだろうが、はまだ議会だよりの原稿も慎重につくるとすごく時間がかかるのに、毎委員会ごとに報告する中身をつくるとすれば相当な労力が必要である。それだけの労力をかけた割にSNS利用者に届くか考えたときに、効果と労力が釣り合うか疑問に思う。それにやはり誤った情報を流したときのチェック方法や訂正方法、お詫びするとしてもどういう形でできるか。そういう機能はとても弱い。責任体制を含め

三浦委員長

て煮詰める必要があるし、もう少し慎重に考えていただきたい。

基本的にSNSは拡散されることを狙った媒体なので、もちろん発信情報に誤りがあるてはいけないが、拡散されやすいことは狙っているので、拡散に消極的になるのではなくむしろ積極的に拡散してもらうにはどういう情報発信をすればよいかを基本に考えているので、前提が違うと思う。ただ小川委員の指摘のように議会アカウントで発信する場合は、例えば見解が人によって非常に分かれている事柄についてどちらかに偏った意見を総意として発信するようなことは避けねばならない。運用についてはもちろん注意しなければいけない。そういう懸念点は指摘のとおりだと思う。ちなみに今回これを議会広報広聴委員会で提案させていただくに当たり副委員長と分担して各委員長に見解を伺ってみたが、基本的に情報発信をしていくことについては皆前向きだった。ただ、運用の仕方は小川委員に指摘された部分含めて、中身は何を扱うのか、どういう発信の仕方をするのかはきちんとしておかないといけない。ただTwitterやYouTubeを使ってできるだけ多くの方が見やすいようツールを整えるのはよいことだと言われた。共有しておく。

今日いただいた懸念点についてはこちらも再度持ち帰り、改めて提案したい。引き続き、どういう目的でこういった提案をしているか、前段部分をご理解いただきたい。

やり方をこれに限ったわけではない。議会をより身近にするためにどういうやり方がよいか、アイデアはどんどんご提案いただきたい。ちなみに浜田市議会の公式Twitter運用基準が添付されているので、こういったものも参考として見ていただけたら。小寺書記から補足説明があるか。

小寺書記

時代に即して議会情報をどんどん発信していけたらと思う。皆からいろいろご提案いただきたい。

三浦委員長

ちなみに事務局の負担や懸念点など、これを協議する中で出てきたものがあるか。

小寺書記

投稿は事務局職員だと思うが、特に事務局内で決裁を取らずに投稿するのが事務局の仕事としてはどうかと気になる、という意見はあった。その辺も考えると投稿も議員がやるという方法も一つかもしれない。文責は委員長等が負うが、投稿内容をつくる上

河上局長
三浦委員長

で事務局がどうかかわるかも気になる。

事務局も考えているが、もう少し慎重に練っていただければ。

今日のご指摘も踏まえ、引き続き検討はしていきたい。また意見を伺う。

小川委員

運用基準は今日初めて提案された中身なのか。どこかほかの自治体がつくられたものを参考に案をつくったのか。

小寺書記

はい。

小川委員

まだ運用はされておらず、もしやるならこういうルールをつくっておくべき、ということで示されたということは、これについても検討したほうがよいか。

(「はい」という声あり)

(3) その他

三浦委員長
笹田議長

この件でほかに何か意見があれば。

Y o u T u b e だけで3分の動画をやるのはもったいない。使うならいろいろな媒体を使ってよい。もし皆が大丈夫だと思うなら、せっかくつくった動画をT w i t t e r にも流してよいのでは。今、若者の間ではT i k T o k が流行している。時代についていく必要もある。

小川委員

先進自治体はさまざまな媒体をつかっていると思うが、課題もあると思う。先進地が抱える問題を拾い出して事前に勉強しておくことも必要では。

三浦委員長

以前ほかの自治体のF a c e b o o k を調べたことがあるが、更新がとまっていたり閲覧数が伸びてなかったり。議論の参考になるような他市町村の事例など、情報を加えて再度皆に投げかけたい。具体的な事例があれば情報提供をお待ちする。

4. その他

三浦委員長
笹田議長

何か皆からあるか。

今からタブレットに配信する資料をごらん願う。議会改革の検討結果が昨年7月に提言として送られている。その中で、多様な人材が議員に立候補する環境整備について議論した。その3番目、議会の主権者教育がシティズンシップ教育の推進を進めていくべきだと、議長団として特別委員会から承っている。その中で前回、

この委員会でも主権者教育のことが練られたので、主権者教育やシティズンシップ教育の推進についてはこちらの委員会でも取り扱って進めていただきたい。委員の皆の意見を伺いたい。

三浦委員長

皆から意見はあるか。2年間の中期的活動計画の中に主権者教育、市民にどれだけ議会活動に関心を持ってもらうかを主権者教育の視点からも少し考えてみたいということは、事業計画の中で提案している。その一環として議員定数等議会改革推進特別委員会の申し入れ部分を引き継いで扱っていくことに関しては、委員会の活動計画と方向性が重なるので問題ないと私は思うが、皆はどうか。

川上委員

確かに主権者教育、シティズンシップ教育は必要だと思うが、議会広報広聴委員会としてこういう教育部分に取り組んでよいのか。一環としてならよいが、これをメインでやっていくのはいかがかと思う。

三浦委員長

教育内容やどこまで踏み込めるかというのはあるが、県立大学の先生との共同研究の件はどこまで皆に報告してあるだろうか。

小寺書記

皆には申請書を出すことまでは話している。採択の結果次第でまたお知らせすることになっている。

三浦委員長

以前共有させていただいた県立大学と市とで共同研究しようというところに主権者教育をテーマに一緒にどうだろうかという投げかけて、まだ結果が出てないのでわからないが、そういった取り組みも当委員会で行っているのだから、そういった範疇内で。これを掘り下げていくのは難しいが、採択されれば県立大学の先生のお力も借りながら。まだ議会として取り組んでないので一歩踏み出すという意味でどうかと。模擬議会の開催や高校生による政策甲子園の開催を検討されたいという要望もあるので、できるだけこのような人たちの政治参画をどう促すかを議会として考えていくのなら、当委員会の所管でもあるかと個人的に思う。

川上委員

そういう部分でやるなら。

笹田議長

結局広報広聴につながる部分が多くて、4番の議会におけるICTの活用と推進についても、後半部分は広報広聴機能として委員会の名前も出ている。SNSの活用など課題もいろいろあるができればこの委員会でも取り組んでほしいということ、特別委員会から議長が承っている。そういった意味でも推進していかない

と、せっかく提言していただいたものが今はそのままになっているので。どのようにして小・中・高校生に政治に興味を持ってもらうか、仕組みづくりをこちらで考えていただきたい。

三浦委員長

当委員会の所管の範疇ではないかという解釈についてはご理解いただけるだろうか。

川上委員

それについては理解する。

三浦委員長

具体的にどう活動していくかは皆に都度諮りながら進める。何かご指摘があればまたいただきたい。議長から、主権者教育については当委員会で預かって進めてもらいたいとのこと。よろしく願います。

川神委員

これは微妙な問題で、当委員会が全てではないが、まずはこの委員会から取り組みばどうかと思っている。PTAの会合の際に主権者教育の必要性が保護者から出された。しかし教育委員会はそれに本気で取り組む気があまりないということで。議会は人材育成としてまちをどうするかというときに、どうかかわれるかという仕組みを知らなければどうにもならないので、そういうことを広報広聴するのはこの委員会の役割なのかと思っている。

三浦委員長

ではそのような形で、当委員会のできることを考えていく。ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

では最後に。小寺書記から。

小寺書記

次回の委員会について。

《 以下、日程調整 》

三浦委員長

では5月17日の午後1時30分から次回の議会広報広聴委員会を開催し、今日いただいたいろいろな意見のその後について協議したい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

本日もスムーズな進行とたくさんの意見をいただき感謝する。以上で議会広報広聴委員会を終了する。

[11時 21分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀